

「強風による建築物等の疲労損傷問題の現状と展望（4）」

趣旨：非常に稀な地震、台風、竜巻等による激甚災害における建築物、構造物の被害は顕著なため、設計に際しては、最大荷重に関心が向かいがちです。しかし、継続的に受けているダメージの蓄積が構造物の耐力低下につながる疲労損傷問題は、歴史的に見ても構造物の設計において重要で、忘れてはなりません。構造物の大型化、複雑化に伴って、被害要因も複雑化し、疲労損傷の蓄積がどのような形で被害となって顕在化するか予想が困難です。安全保障や資産の保全という意味を含めて、社会資本としての既存構造物や、今後建設される新たな構造物の疲労損傷を含めた安全性のパフォーマンスを検討することが重要であるという問題意識に基づき、特に継続的で作用時間の長い、風応答による構造物・部材の疲労損傷問題を、さまざまな構造物や部位、材料について検討したいと考え、公開研究会を企画しました。本研究会は2014年度から開催を続け、第4回目の開催です。ご関心のある方の参加をお願い申し上げます。

大熊武司（神奈川大学名誉教授）

主 催：東京工芸大学 風工学研究拠点

（文部科学省 共同利用・共同研究拠点）

開催日時：2017年2月23日（木）13:00～17:

30 開催場所：虎ノ門 Annex, 2階 C 会議室

港区虎ノ門 1-16-8 石井ビル

銀座線「虎ノ門」1番出口より徒歩3分、

丸の内線/日比谷線/千代田線「霞が関」A12出口
より徒歩5分

参加費：無料

問い合わせ：東京工芸大学 風工学研究拠点 事務局

TEL：046-242-9658

プログラム(敬称略) (講演者の都合により変更されることがあります。)

13:00～13:20 【趣旨説明】 指針類等から見た風の繰り返し荷重効果への関心の高まり

大熊 武司（神奈川大学名誉教授）

13:20～14:20 【招待講演】 アルミ材料の疲労特性について

中込 忠男（信州大学名誉教授）

休憩 10分

14:30～17:00 一般講演(発表 30分, 質疑応答含む)

発表者 (所属)

道路附属物の損傷事例と技術基準類での対応

星隈 順一（国土技術政策総合研究所）

観測記録に基づく超高層免震建物の風応答疲労評価手法の提案

佐藤 大樹（東京工業大学）

免震建物の設計において想定すべき台風と地震および許容する D 値の設定方法

西嶋 一欽（京都大学防災研究所）

強風による建築物外装材等の疲労損傷

高森 浩司（奥地建産）

機械的固定工法防水システムの耐風性能評価

栗田 剛（東急建設）

17:00～17:20 討論とまとめ

司会・まとめ：吉江 慶祐（日建設計）

